

科学研究費補助金（学術創成研究費）研究進捗評価結果

| | | | |
|------------------|-----------------------------|------|---------------|
| 課題番号 | 17GS0207 | 研究期間 | 平成17年度～平成21年度 |
| 研究課題名 | 高周期典型元素不飽和化合物の化学：新規物性・機能の探求 | | |
| 研究代表者名 (所属・職) | 時任 宣博（京都大学・化学研究所・教授） | | |

【平成20年度 研究進捗評価結果】

| 該当欄 | | 評価基準 |
|--|----|--|
| | A+ | 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる |
| ○ | A | 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる |
| | B | 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である |
| | C | 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |
| （評価意見） | | |
| <p>本研究課題においてはこれまでに、リン、アンチモン、ビスマス、ケイ素など、さまざまな高周期典型元素の不飽和結合をもつ化合物が次々と生み出されている。また、アセン類の炭素を高周期典型元素に置き換えた化合物の合成も順調に進んでいる。これらの化合物合成においては、当初目的に向けて研究は順調に進展しており、期待通りの成果が見込まれる。また、研究成果も積極的に発表され、世界的にも高い評価を得ている。</p> <p>今後は、昨年度の中間評価でも指摘された物性評価、特に固体物性の研究での発展が期待される。</p> | | |

【平成22年度 研究進捗評価結果に対する検証結果】

| |
|--|
| <p>研究終了翌年度に検証を行った結果、新規化合物の合成に関しては期待どおりの成果が得られているが、物性・機能への展開に関しては期待された成果は挙がっていない。</p> |
|--|